

貴団体が活動する上で困っていることについて

- 会員の高齢化と新規加入の減少が進み、団体の継続性が危機的になっている。
- 個人情報への壁やデジタル弱者の存在で、必要な情報が会員に届けにくい。
- 高齢化やバス減便で移動が困難となり、活動参加や生活に大きな支障が出ている。
- 運営費不足と人材難で運営が厳しい。
- 役員のなり手が減り、行事参加も少なく、特定の役員に負担が集中している。

特に困っていること、伝えたいことについて

- 発達支援システムの中で生活スキルを育み、より将来の自立や就労につながるようにしてほしい。
- 移動手段の不足や企業理解の課題により就労継続が難しく、選択肢が広がりにくい。
- 公共交通の減便や柔軟な送迎対応の不足で、日常生活の移動が大きく制限されている。
- 避難所環境や個別支援が障がい特性に合わず、安心して避難できる体制が整っていない。
- 障がい者が参加しやすい環境整備や費用支援が不十分で、活動機会が制限されている。
- 不登校児や緊急時に利用できる「第三の居場所」が不足し、家庭の負担が大きい。
- 障がい特性に応じた住まいの選択肢が乏しく、親亡き後の生活設計が立てにくい。
- 障がい理解のあるボランティアが不足し、活動支援が確保しにくい。

合理的配慮について

- 障がいのある人が市の情報にアクセスしづらく、必要な情報が得られない。
- 手話通訳体制が不十分である。
- 避難所環境や支援物資が障がい特性に合わず、安心して避難できる体制が整っていない。
- 本人・家族も含め合理的配慮の概念が浸透せず、必要な支援を求めにくい状況がある。

その他のことについて

- 発達支援の成果が見えにくく、親の高齢化や情報整理の負担が大きい。
- 紙媒体等で身近な施設での情報提供を強化して欲しい。